

京都大学大学院農学研究科附属演習林 白浜試験地の鳥類相

羽谷 啓造・二村 一男・上中 光子

はじめに

京都大学大学院農学研究科附属演習林白浜試験地は、和歌山県白浜町の基幹産業である温泉を中心とした観光地にあり、北側は田辺湾、東、西側は開発された宅地、南側は、南紀白浜空港に隣接している（図-1）。このような環境に位置している中で各種植栽された樹木の実験林や天然生林は、風致林、緑地としての公益的機能を果たすとともに鳥類の生息、越冬、繁殖、渡り途中の休息地としての役割を果たしている。鳥類相の報告は、和歌山県下全域については黒田^{1)・2)}や白浜町全域について金田³⁾の報告はあるが、本試験地の調査記録はない。現時点での本試験地の鳥類相を明らかにすることは実験施業や学術研究資料としても参考になるとと思われるので、その調査結果を報告する。

鳥類の目撃情報に協力をしていただいた本試験地の元職員の上中幸治氏、拾得した鳥類の同定や助言をいただいた日本野鳥の会京都支部の石井照昭氏に謝意を表したい。また、とりまとめにご教示いただいた京都大学大学院農学研究科の渡辺弘之教授に厚くお礼申し上げる。

調査地及び調査方法

白浜試験地は、和歌山県の西南部「田辺南部海岸県立自然公園」の田辺湾を望む標高1～157.6mの北斜面に位置し、面積は55.31ヘクタールである。本学の演習林としては、最も温暖な地にあり、過去30年間⁴⁾の平均年降水量は2,067mm、年平均気温は17.8℃、気温の極低値は-4.5℃で霜は数回、積雪はほとんど見られない。

林相は、マツクイムシの壊滅的な被害を受けた後、わずかに残ったアカマツと常緑広葉樹のヤマモモ、ヒメユズリハ、ウバメガシ、ネズミモチ、タイミンタチバナ、シャシャンボ、クロバイ、センリョウ、トベラ、ソヨゴ、マンリョウなどと、落葉広葉樹のコナラ、ハゼノキ、ヤマザクラ、アカメガシワ、イヌビワ、ムラサキシキブなどが混交する二次林である。土地の利用区分は（図-2）、針広混交林の天然生林がおおよそ60%、外国からの導入樹種のユーカリ類、アカシア類、マツ類とスギ、ヒノキの人工の実験林がおおよそ30%である。また、土地は浅くやせ地で斜面や尾根筋にはウラジロ、コシダ類が繁茂した場所が多い。

調査方法は、四季を通じ9倍の双眼鏡を使用して生態観察を行った。鳥類目録の配列順序は、日本鳥類目録改訂第5版（日本鳥類学会1974）、和名、学名は、小林⁵⁾によった。観察例の少ないものは、観察年月日を記録し、観察記事をできるだけつけ加えた。

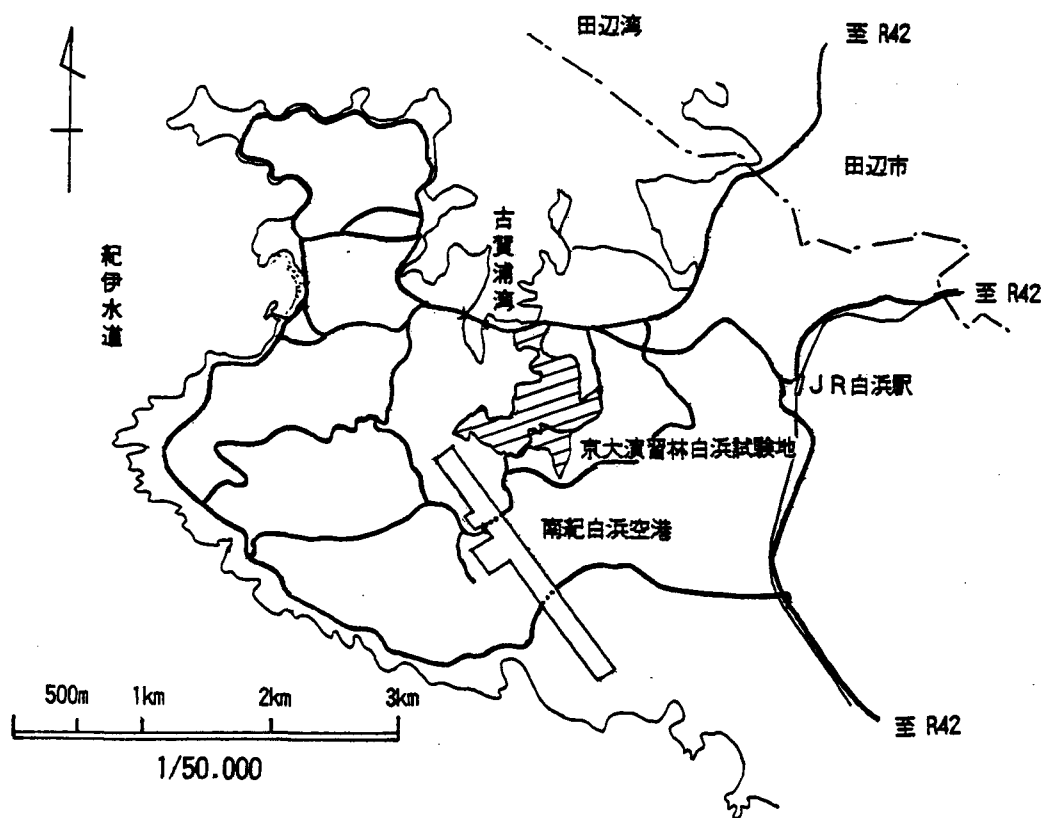


図-1 位置図

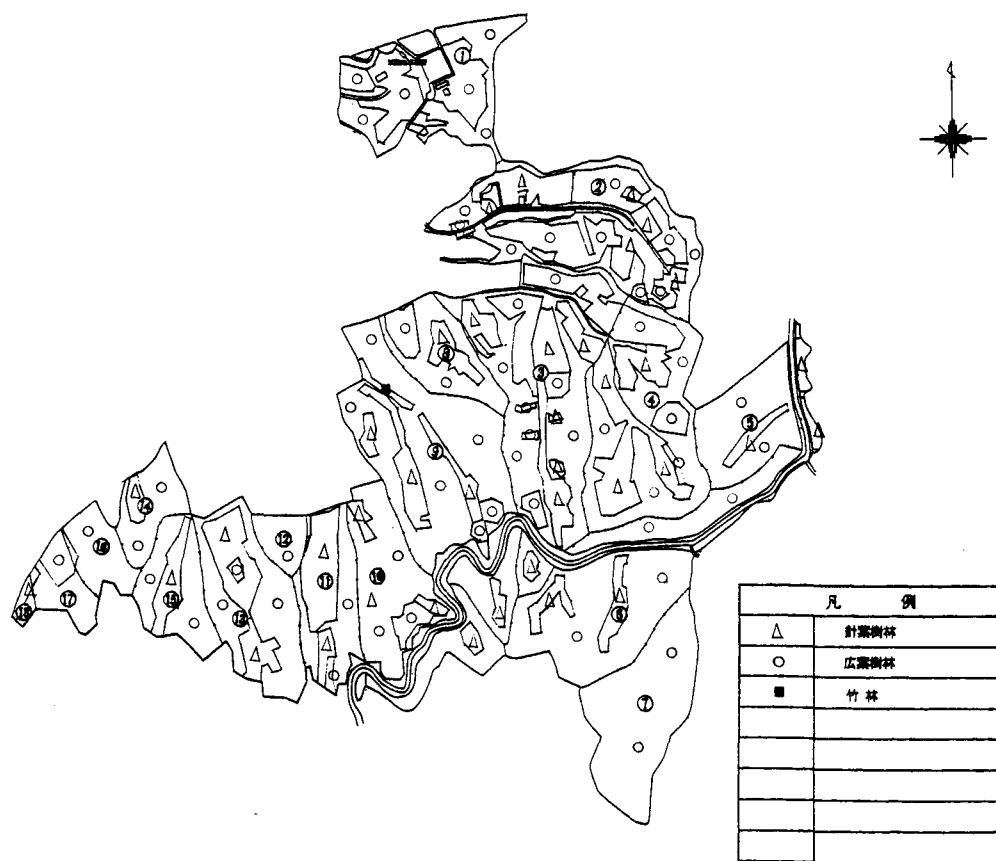


図-2 林内図

白浜試験地の鳥類目録

PODICEPEDIFORMES カイツブリ目

PODICEPEDIDAE カイツブリ科

Podiceps ruficollis poggei Reichenow カイツブリ

1998年1月9日に古賀浦湾で1羽観察。

PELECANIFORMES ペリカン目

PHALACROCORACIDAE ウ科

Phalacrocorax carbo hanedae Kuroda カワウ

古賀浦湾や養魚場付近で10羽程度が周年生息している。近くの富田川では10～20羽程度の群れをよく見る。

CICONIIFORMES コウノトリ目

ARDEIDAE サギ科

Ardea cinerea jouyi Clark アオサギ

古賀浦湾や養魚場付近で10羽程度が周年生息している。近くの富田川では20羽程度の群れをよく見る。

Egretta garzetta garzetta (Linnaeus) コサギ

古賀浦湾や養魚場付近で2～3羽程度が周年生息している。林内で休息する単独個体を観察することがある。

ANSERIFORMES ガンカモ目

ANATIDAE ガンカモ科

Anas platyrhynchos platyrhynchos Linnaeus マガモ

冬鳥として古賀浦湾付近に50羽程度が周年生息する。

Anas poecilorhyncha zonorhyncha Swinhoe カルガモ

1998年1月9日に空港内の遊水池で2羽観察。

FALCONIFORMES ワシタカ目

ACCIPITRIDAE ワシタカ科

Milvus migrans lineatus (Gray) トビ

2～3羽が周年生息する。空港の滑走路付近で10羽程度を観察することもある。

Haliaeetus pelagicus pelagicus (Pallas) オオワシ

1991年2月に3林班のユーカリにとまっていた。

Pandion haliaetus haliaetus (Linnaeus) ミサゴ

古賀浦湾付近で1～2羽が周年生息し、林内を時々通過する。1985年ころに7林班のツブラジイ（直径65cm、樹高23m）の樹上で営巣したことがある。

Butastur indicus (Gmelin) サシバ

夏鳥として4月中旬に渡来し、時々林内を通過する。

FALCONIDAE ハヤブサ科

Falco peregrinus japonensis Gmelin ハヤブサ

周年生息し、秋季の10月から春季の3月にかけて1林班の高圧電力鉄塔（高さ約30m）を止まり場として利用することが多く、付近を通過する小型の鳥類を捕食することもある。天候の悪い日は見かけない。

GALLIFORMES キジ目

PHASIANIDAE キジ科

Bambusicola thoracica thoracica (Temminck) コジュケイ

周年生息し、林内で時々鳴き声を聞くが個体数は少ない。

Phasianus colchicus versicolor Vieillof キジ

1997年4月14日に2林班で鳴き声を聞く、20年前はよく見かけ繁殖したこともある。

CHARADRIIFORMES チドリ目

LARIDAE カモメ科

Larus ridibundus sibiricus Buturlin ユリカモメ

2月上旬に冷え込むと古賀浦湾に20羽程度が飛来する。

Larus canus kamtschatschensis (Bonaparte) カモメ

1月中旬に古賀浦湾に50~70羽程度が時々飛来する。

COLUMBIFORMES ハト目

COLUMBIDAE ハト科

Streptopelia orientalis orientalis (Latham) キジバト

5~6羽程度が周年生息する。モリシマアカシアの果実をよく食べている。

Sphenurus sieboldii sieboldii (Temminck) アオバト

1997年4月10日に鳴き声を聞く。

CUCULI ホトトギス目

CUCULIDAE ホトトギス科

Cuculus saturatus horsfieldi Moore ツツドリ

1997年9月10日に温室内でガラスに衝突死した渡りの途中と思われる個体を拾得した。

STRIGIFORMES フクロウ目

STRIGIDAE フクロウ科

Strix uralensis hondoensis (Clark) フクロウ

1998年2月12日に4林班で1羽観察。この地方でフルツクと呼ぶ。(以前9林班のヒノキ、タケ林の地上巢で卵を確認したことがある)

CORACIIFORMES ブッポウソウ目

ALCEDINIDAE カワセミ科

Alcedo atthis bengalensis Gmelin カワセミ

1983年ころに苗畑の人工池に1羽が飛来したことがある。

PICIFORMES キツツキ目

PICIDAE キツツキ科

Dendrocopos kizuki nippon (Kuroda) コゲラ

1~2羽が周年生息する。テーダマツの立ち枯れ木で採餌跡をよく見かける。

PASSERIFORMES スズメ目

ALAUDIDAE ヒバリ科

Alauda arvensis japonica Temminck & Schlegel ヒバリ

空港周辺で周年生息し、時々林内に漂行する個体もある。

HIRUNDINIDAE ツバメ科

Hirundo rustica gutturalis Scopoli ツバメ

夏鳥として3月中旬に渡来し、時々林内上空で飛翔する。隣接地の民家で営巣する。

H. daurica japonica Temminck & Schlegel コシアカツバメ

1998年4月7日に林内上空で20羽程度が飛翔していた。隣接地の金閣寺の山門には古巣がある。

MOTACILLIDAE セキレイ科

Motacilla cinerea robusta (Brehm) キセキレイ

2～3羽程度が周辺の住宅地に周年生息し、事務所付近に1～2羽が時々飛来する。この地方でオオフリ（尾振り）と呼ぶ。

Motacilla alba lugens Gloger ハクセキレイ

1998年1月9日古賀浦湾付近で2羽観察。

Anthus spinoletta japonica Temminck & Schlegel タヒバリ

1998年1月10日に空港の草地で50羽程度を観察した。

PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

Hypsipetes amaurotis amaurotis (Temminck) ヒヨドリ

周年生息し、個体数も比較的多い。カリステモン（マキバブラッシノキ）の花に吸蜜にやってくる。オオシマザクラ、ヤマザクラの果実をよく食べる。この地方でヒヨと呼ぶ。

LANIIDAE モズ科

Lanius bucephalus bucephalus Temminck & Schlegel モズ

周年生息し、数は少ないが繁殖した。

TURDIDAE ツグミ科

Erithacus cyane (Pallas) コルリ

1998年4月6日3林班で雄を1羽。

Tarsiger cyanurus cyanurus (Pallas) ルリビタキ

冬鳥として渡来するが数は少ない。苗畑付近でよく見かける。

Phoenicurus aureus aureus (pallas) ジョウビタキ

冬鳥として2～3羽が渡来する。苗畑付近でよく見かけ、ピラカンサの果実を好んで食べる。

Monticola solitarius philippensis (Muller) イソヒヨドリ

古賀浦湾付近で周年生息し、時々事務所付近の電柱に止まることもある。オオシマザクラの果実を食べる。隣接地の白浜警察署の玄関の隙間で毎年営巣している。

Zoothera dama aurea (Holandre) トラツグミ

1996年11月25日に温室に衝突死した。

Turdus pallidus Gmelin シロハラ

冬鳥として渡来するが数は少なく、林床で採餌することが多く目立たない。この地方でシナイと呼ぶ。

Turdus naumanni eunomus Temminck ツグミ

冬鳥として10月下旬頃5～6羽程度が渡来する。1998年1月10日に10林班で7羽が通過。

SYLVIIDAE ウグイス科

Cettia diphone cantans (Temminck & Schlegel) ウグイス

周年生息するが数は少ない。初鳴きは2月中旬頃である。

MUSCICAPIDAE ヒタキ科

Muscicapa cyanomelana cyanomelana Temminck オオルリ

1994年5月に事務所付近で雄を1羽観察。

AEGITHALIDAE エナガ科

Aegithalos caudatus trivirgatus (Temminck & Schlegel) エナガ

周年生息するが数は少ない。

PARIDAE シジュウカラ科

Parus varius varius Temminck & Schlegel ヤマガラ

周年生息するが数は少ない。マツ林でよく見かける。

Parus major minor Temminck & Schlegel シジュウカラ

周年生息するが数は少ない。ヤマガラより多い。

ZOSTEROPIDAE メジロ科

Zosterops japonica japonica Temminck & Schlegel メジロ

周年生息し数は多く、バンクシア、カリステモン（マキバブラッシノキ）、ツバキ、タイワンツバキ、ヤマザクラ、オオシマザクラの花に吸蜜にやってくる。ヤマザクラ、オオシマザクラ、ビナンカズラ、ハゼの果実を食べていた。繁殖した。

EMBERIZIDAE ホオジロ科

Emberiza cioides ciopsis Bonaparte ホオジロ

周辺の空港付近や林内で周年生息するがあまり多くない。

Emberiza elegans elegans Temminck ミヤマホオジロ

1997年12月6日に苗畑で1羽観察。

Emberiza spodocephala personata Temminck アオジ

10月から3月上旬にかけて藪の中で単独個体を観察するが目立たない。1997年4月3日に歩道で採餌していた。1988年3月31日に温室に3羽が衝突死した。

FRINGILLIDAE アトリ科

Carduelis sinica minor (Temminck & Shlegel) カワラヒワ

1997年4月21日にマツの先端部でさえずっていた。

Pyrrhula pyrrhula griseiventris Lafresnaye ウソ

1997年1月31日に雌を3羽観察。

PLOCEIDAE ハタオリドリ科

Passer montanus saturatus Stejneger スズメ

隣接地の住宅地に周年生息し、繁殖している。事務所付近には3～4羽程度が漂行する。オオシマザクラ、ハゼの果実を食べる。

STURNIDAE ムクドリ科

Sturnus cineraceus Temminck ムクドリ

隣接地で30羽程度が周年生息し、事務所付近に1～2羽程度が漂行することがある。

CORVIDAE カラス科

Corvus corone orientalis Eversmann ハシボソガラス

10羽程度が周年生息し、古賀浦湾付近には比較的多い。1998年1月9日に空港で尾羽が部分白化した個体を観察した。夕方になると50～60羽程度（ハシブトガラスと混群）の群れが近くの野外動物園（アドベンチャーワールド）の食べ残し餌を目当てに飛来する。

Corvus macrorhynchos japonensis Bonaparte ハシブトガラス

5～6羽程度が周年生息し、古賀浦湾付近には比較的多い。

調査結果及び考察

白浜試験地及びその周辺で27科49種の鳥類が確認された。渡りの形態から区分すると、周年生息する留鳥が27種で全種数の55%、越冬のために渡来する冬鳥が12種で24%、渡りの途中に休息に立ち寄る旅鳥、漂鳥が8種で16%、繁殖のために渡来する夏鳥が2種で5%であった。留鳥が最も多く、次いで冬鳥、旅鳥、夏鳥の順である。林内でフクロウ、ミサゴ、メジロ、モズ、ハシボソガラスの繁殖を確認したが、この他にも留鳥で繁殖の可能性があるとされる種もある。また、隣接地ではツバメ、イソヒヨドリが繁殖した。

個体数はメジロが最も多く、次いでヒヨドリであった。このことは造成された見本園や試験林のアカシア類、カリステモン（マキバブラッシノキ）、バンクシア、ウメ、サクラ類、ツバキ、隣接地の栽培のミカン類の花がメジロ、ヒヨドリの格好の吸蜜源であることや、ネズミモチ、シャシチャンボ、タイミンタチバナ、センリョウ、イヌビワなどの果実が重要な餌木と利用され、さらに温暖な気候と島状に残された森林が鳥類にとって生息、越冬、繁殖、休息地としての重要な役割を果たしていることを証明するものであろう。

黒田^{1), 2)}は、和歌山県全域で253種の鳥類を記録し、本試験地で記録したオオワシ以外はすべて含まれている。また、白浜町全域を調べた金田³⁾は、101種を記録している。本試験地で観察できなかったカケス、アカゲラ、センドイムシクイ、マヒワなどが記録されているが、本試験地で観察できたサシバ、ミヤマホオジロ、シロハラ、カワウ、カイツブリなどは記録されていない。

今後とも、鳥類の季節変化、繁殖の確認、個体数の把握など重要な課題について調査を継続したい。

引用文献

- 1) 黒田隆司(1979). 和歌山県の鳥類 1. 南紀生物. 南紀生物同好会. (21)1. 43-49
- 2) ——— (1979). 和歌山県の鳥類 2. 南紀生物. 南紀生物同好会. (21)2. 82-87
- 3) 金田喜蔵(1982). 2. 野鳥. 白浜の自然. 白浜町誌 自然編. 白浜町. 99-111
- 4) 演習林気象報告(1998). 白浜試験地. 第12回. 99-111
- 5) 小林桂助(1977): 原色日本鳥類図鑑(増補改訂新版). 保育社. 大阪. pp248